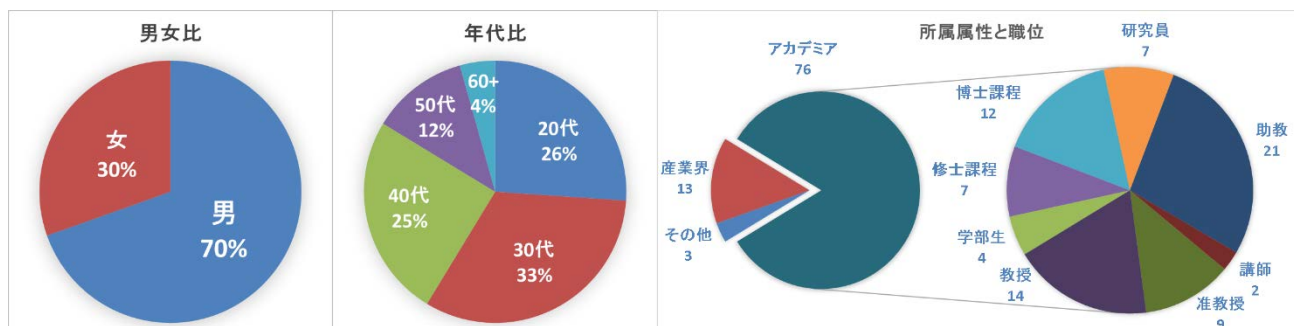


第3回食欲・食嗜好の分子・神経基盤研究会 事後解析結果

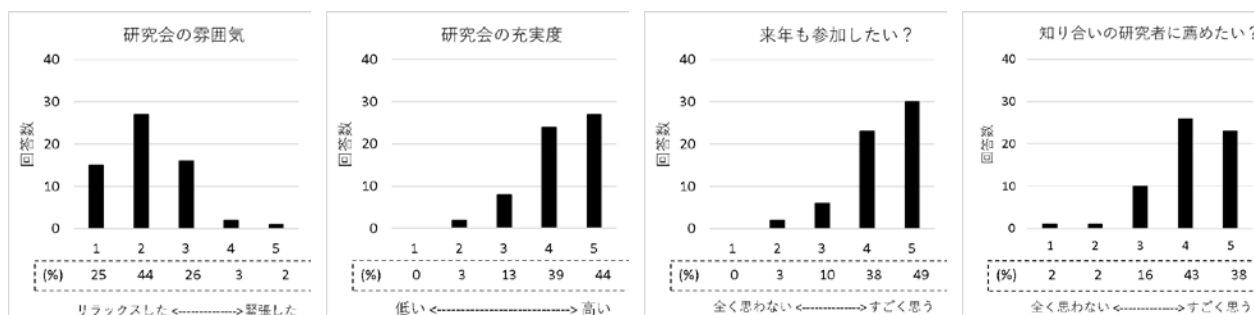
① 参加者の属性について（参加総数 92 名）



30代で、助教レベルの参加者が最も多かった。今年は20代の参加者が40代よりも多く、懇親会でも若手が増えたように感じられた。

アンケート集計・解析結果について：有効回答数 61（回答率：61/92 = 66%）

② 雰囲気・充実度など



【解釈】全体としては、リラックスした雰囲気、充実度の高い研究会に発展していると言えます。今後もこの方向性を維持したいと思います。

コメントの抜粋・まとめ

- コンセプトである、低予算で楽しい研究会や Unpublished date 中心の発表会、というのはとても面白い。unpublish data の発表であることも、今後の研究にとってお互いに刺激的になった。
- 研究中で意見を聞きたいときに、研究室内だと偏ってしまうときがありますが、非常にいい息抜きとして意見を集めることができると思う。
- 通常参加する学会ではお会いしないような先生方から、違う切り口の知識やアイデアを得られた。活発なディスカッションがあり、研究者と聴衆者双方に役に立つ有意義なものであったと思う。
- 明日すぐ実験に使える情報が手に入る研究会というよりは、違う切り口から自分の研究を見つめなおして、新しい哲学を取り入れに行く研究会というような印象です。

- 多くの視点から意見を交わせる研究会のままでいてほしい。人的交流がしやすいプログラムと、雰囲気を持続して頂けると嬉しい。
- アットホームな、普段着でリラックスしていて、発言しやすい雰囲気はこのまま維持すべきです。
- じっくりディスカッションできる、大変貴重な場だと感じます。今回もとても楽しく勉強させていただきました。初歩的・初学的なことでも訊いて良いですね。
- 各地のお菓子が食べれてよかったです。

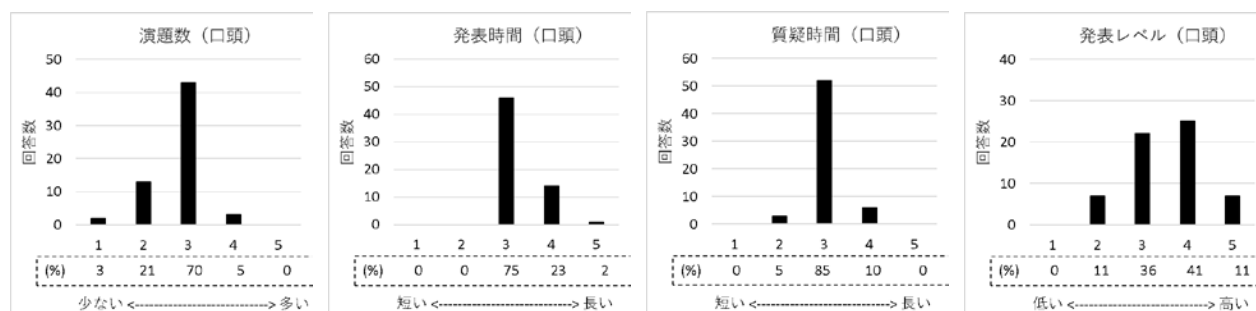
③ スケジュール（全般）

【解釈】今回の全体スケジュールの組み方は、ご好評頂きました。今後も、各セッション・ディスカッション・ブレイクの時間を今のように十分確保したスケジュールを組みたいと思います。

コメントの抜粋・まとめ

- 口頭発表・討論が長めに設定されており、コーヒーブレイクが口頭発表の合間に何回かあって、時間も程よく取ってあるのが良かった。
- 発表時間と休憩時間のバランスがちょうどよく、大変聞きやすかった。
- 口頭発表に関し、質問時間を十分長くとれる（質問がなくなるまで質問できる）という環境は非常にありがたい。特に、多彩な分野の方が集まっているので、基礎的なところから時間を気にせず質問できるような環境は大事にしていきたい。大きな学会等では時間的な制約があるが、本会では時間オーバー分を coffee break で吸収できるのが良かった。

④ 口頭発表について

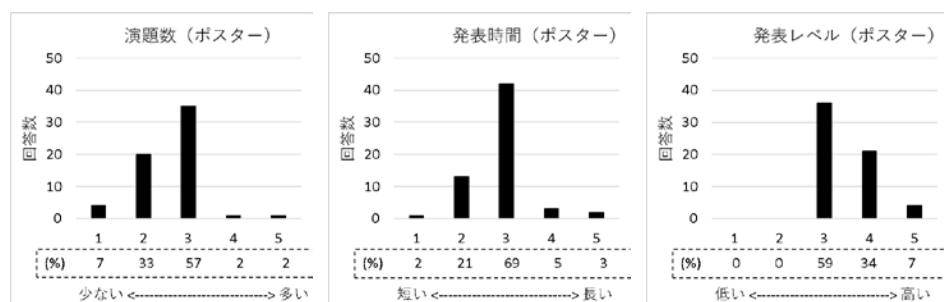


【解釈】口頭発表の質の担保が課題であると判明しました。現状では発表フォーマットが一つしかない（発表 20 分＋質疑 10 分）ため、発表が玉石混交になったと考えられます。対策として、コメントの提案にあるように、若手や萌芽性の高い発表向けの短い発表枠（発表・質疑を 8+2 もしくは 10+5 分）を来年は新設したいと思います。そして、ある程度データがそろっている方の発表（従来枠）と、口頭発表のクラス分けを行い、演題の質を担保したいと思います。

コメントの抜粋・まとめ

- 口頭発表の順番において、ヒト研究を初日に持ってきて欲しい。普段聞かないのでじっくりと聞きたいし、懇親会でも聞けるので。
- 論文発表前ぐらいのまとまった仕事の長めのもの(30-40 分)と、萌芽期の仕事の短めのもの(20 分程度)の2種類にしてはどうか。
- 20 分と 10 分の 2 つに設定し、10 分枠の発表者を増やせばいい。
- 口演 20 分・質問 10 分はよかったです。質問と、その答えから学ぶことも多かったですが、学生さんの経験を積む場としては 8 分・2 分くらいでもよいのかな、と思いました。
- 若手の口頭発表を時間を少し短くして演題数（若手の）を多くした方がよいのではないかな。

⑤ ポスター発表について



【解釈】ポスターについては、多くの課題が見えてきました。

ディスカッションの時間を長くすることが求められています。今年のポスター懇親会は、当初 1 時間の予定でしたが、会場の盛り上がりを考慮し、急きょ 1 時間半に延長しました。アンケート結果を見ると、ポスター懇親会の時間を確保するために、Poster Blitz はなくしても良いように思います。

また発表の質・量に関しても、口頭発表に比べると評価が低い出ました。本研究会は、完全公募制で演題を集めており、参加者・応募者に発表の質と量を依存していることが、本質的な課題と思われます。

コメントの抜粋・まとめ

- 一次会のポスター懇親会が短く感じた。
- ポスターのフラッシュトークはあまり必要性を感じなかった。ポスターの口頭発表が 3 分を超えるもの、そもそもまとめる気がないものなど、少々レベルが低く感じた。
- 参加者数に比べ、ポスター発表数が少ないと思う。もう少しエンカレッジしてはどうか。口演数も、ポスター発表開始時間を遅らせる、ポスタービスをなくす、最終日の終了時間を遅らせるなどして増やせると思う。

⑥ 懇親会について

懇親会	数	%
有料で同会場での立食懇親会のみが良い （第1回のフォーマット）	8	13
無料のポスター懇親会のみが良い （第2回のフォーマット）	8	13
無料のポスター懇親会（一次）＋有料（別会場）の立食懇親会（二次） （第3回のフォーマット）	43	70
その他のフォーマットが良い	1	2
不要	1	2

【解釈】懇親会は、今回と同様にポスター懇親会と有料の立食の二次会が良いようです。

本研究会自体への参加費がタダであることを考慮すると、トータルで考えれば二次会の会費は高くはないと思いますが、二次会単体の会費としては高いかもしれません。

今年は業者さんのさしいれのおかげで、ポスター懇親会のツマミが充実していました。また、ポスター懇親会の時間を長くするのであれば、来年は二次会の食事を減らし会費を下げるのが可能か検討したいと思います。

コメントの抜粋・まとめ

- 有料の二次会を立食で行った点は、多くの方との交流が生まれ、大変良かった。
- 懇親会で色々な人とお話できたので、ゆっくり話せる時間があったのが良かった。
- 今回はちょっと高いね、という声は数人から聞きました。

⑦ 参加者プロフィールについて

【解釈】演者・参加者ともに好評で、続けたいと思います。プロフィール項目に HP の項目を追加したいと思います。所属者リストの作成については、作業の手間とのバランスで、現状維持（50 音順）に追加すべきか、見極めたいと思います。

コメントの抜粋・まとめ

- プロフィールで、ニーズを共有するのはとても良い。
- あらかじめ全員のプロフィールが配布され、分野が多様であることが分かり、発表の内容を合わせる事ができた。
- 所属者リストがあれば探しやすい。
- 研究者の所属ホームページ等の情報を記載すれば、研究者をより簡単に調べやすくなります。

⑧ 運営方法について

【解釈】本研究会は、一部のメンバーの自主的な努力（ボランティア）により開催されております。複数名の世話人による運営を今回初めて取り入れましたが、参加者の満足度と当日の進行には支障はありませんでした。今後もこの体制で持続的に開催できるようにしていきたいと思います。

また、想像以上に平日開催の要望があり、来年は平日開催の可能性を含め、開催日程を検討します。

コメントの抜粋・まとめ

- 進行がとてもスムーズで今回運営していただいた先生方の準備の賜物だと思います。
- 今回世話人の先生が複数人で分担されて仕事をされたと伺いました。大変良いことと思います。特に若手の方に仕事を振ることで、このような研究会が発展すると思います。
- 平日開催の方が参加しやすいです。
- 金土の開催も考慮してほしい。
- 土日の開催はかえって参加しにくかったりします。

⑨ 将来的な方向性と課題について

【解釈】4つの課題が見えてきました。（1）学術レベルの維持・向上、（2）さらなる多様化・学際化、（3）学術領域の形成、（4）人材の育成・教育、です。この4点は、相互にリンクしている課題です。

新しい学際的な学術領域を形成するために、多様な第一線の研究者を巻き込み、学術レベルを高めることが先決です。そのうえで、そのような魅力的な学術領域に、若手や企業研究者が意欲的に参画することで、活力にみなぎるホットな研究領域に発展させる必要があると考えています。そして、多様な分野を理解できるように、教育的な内容を充実していくことが、長期的な課題です。

コメントの抜粋・まとめ

- 学術の発展をメインとして、一定以上の研究レベルのキープも重要。
- 研究会のレベルを向上させるため、関連する分野で活躍している研究者の講演を増やせたら良い。
- 初参加の発表者の方のお話しが面白かった。次回も新しい人の話を聞きたい。
- 今年はサルの研究者が加わり、また観点が広がった。次はヒトを対象とした研究者に声も広く声をかけ、ヒトにおける食欲・食嗜好研究が聞きたいと思った。
- マウスやラット等で得られた基礎的な知見について、ヒトでも同様のことが言えそうなのかといった点にも興味を持っております。前回より、ヒトを含む霊長類のご発表が増え、益々面白い研究会になっていると感じておりますので、引き続き、動物からヒトまで、幅広く食欲・食嗜好について議論できる場をご提供いただけますと、大変嬉しいです。
- 現在の形を今後数年間継続して食欲・食嗜好に関する研究者のグループを確立し、それが新学術領域のような新しい形で発展できれば素晴らしいと思います。
- 新学術領域の立ち上げまで頑張ってください（頑張りました）。

- 若手研究者および企業研究者の参加がもっと増えると良い。
- 質問者が固定化されつつあることをいかにして回避するか、その点で何か工夫が必要。
- 分野が広いだけに、基本的な教育コンテンツがあれば（味覚受容システム、中枢における摂食制御機構、ドーパミン報酬系、進化、動物種による違い、など）、もう少しディスカッションが深まったり、学生さんも質問に立てるのではないかな。